

7・10 生産管理システム(1/2) 生産区分

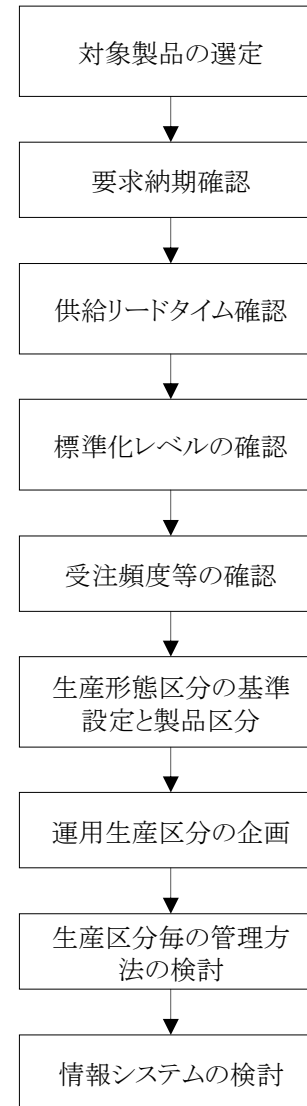
生産管理システムは、生産形態を明確にしたうえで導入しなければなりません。これをあいまいにしたままでERP等のパッケージシステムを導入しようとすると運営できなくなる危険があります。業務改革、システム導入の際には特に留意すべきです。

また受注対応を迅速にし、企業間連携を強化し、在庫削減をはかるSCM活動の際にも同様に、この区分管理が重要となります。

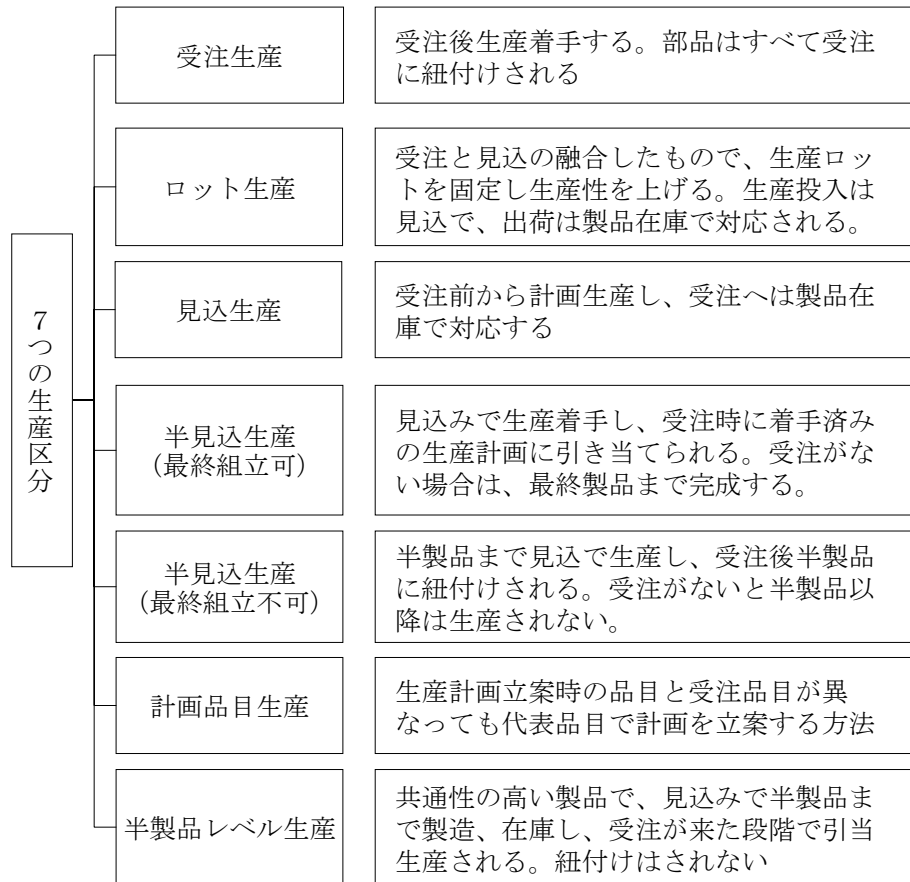
このように、生産形態(ここでは生産区分)の考えとその運用は必須の検討項目です。この検討は生産形態別管理の項を参照してください。

企業は複数の商品を持ち、それらの中で複数の生産区分が必要になる場合が多く、これらの混在した生産管理の運営のためには、システム上の制約条件を確認しておくことが必須です。自社の生産形態を明確にして、それに沿った管理を行うようにしましょう。

展開ステップ



生産管理システムでの生産区分



7.10 生産管理システム(2/2) 生産管理改革ポイント

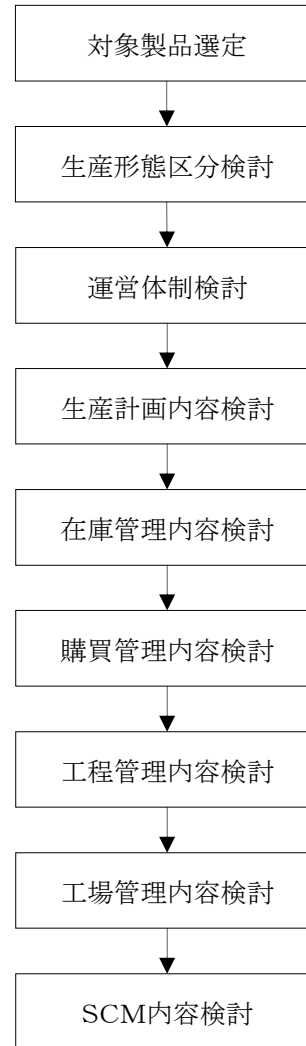
生産管理の骨格は、顧客満足度、競合差別化、自社の利益の三つの視点から見てその方向を検討する必要があります。

概念的に表現すれば、図のような区分概念で製品を区分し、それぞれにおける狙いと実現方法を検討していく必要があります。個々の詳細な生産管理の検討の前に、対象全体をみた区分とその方向性、それを実現するための対策を明確にして活動することが必要です。長い間にその区分管理があいまいになり、現場を混乱させている企業が多く見受けられます。

例、標準品はコスト・納期競争になるが、特注品は対応力の競争になります。

このように自社の生産管理の姿を客観的に見て、判断し、将来の姿を検討することが大切です。このような細かな管理のためには、従来の人中心での管理からITを活用した管理への移行が必要となるでしょう。

展開ステップ



様々な生産とその管理・改革ポイント

対象	狙い	組織機能	生産形態	受注方式	生産方式	在庫持方	主テーマ
通常品	量産効果	固定 安定 作業 組織	見込 受注	内示 確定	MRP	在庫可	集中購買 コスト ダウン
特注商品	迅速性	多能工 柔軟対応 小組織	受注 受注 設計	飛込	MRP	アフター 在庫可能	短納期
試作、 緊急 対応	個別 対応性	設生販 連携組織	受注 設計	受注	製番	在庫ゼロ	短納期

検討観点

生産形態	運営体制	生産計画	在庫管理	購買管理	工程管理	工場管理	SCM
見込 生産 受注 生産 受注 設計 生産 対応 方法	生産性 変動 対応を 考えた 組織 運営 体制	納期回答 回答精度 生産コスト ロット 緊急対応 変動対応 不良率 リコール率 設変対応 設変率 設変在庫	部品 在庫 仕掛 在庫 基準 在庫 安全 在庫	購買価格 短納期 納期遵守 ロット 発注方法 設変対応 在庫管理 C/D対応 欠品率 LT短縮 品質管理 物流検討	不良率 生産LT ロット サイズ 納期 回答 進捗 管理	労働 生産性 設備 生産性 変動 対応 緊急 対応	情報 共有 在庫 共有 計画 統合 物流 直送